

No.	資料	意見・質問	回答・対応
1		発達段階に合わせたプログラムが実践できていてとてもよいと思う。また、体を動かしたり、頭を使ったりする内容が多く、子どもたちの記憶にも残りやすいと感じた。FEEL(感じる心)、THINK(見方・考え方)、ACT(行動する力)に対して、子どもたちが身に付けるべく資質・能力・態度を具体的に示すことが目標であると述べられている。今後もその考えに重点を置きプログラムを実践できればよいと思う。	環境教育実践研究部会では、「保幼小中一貫環境教育カリキュラム」および「環境教育プログラム」を活用し、遊びや体験活動を通じて環境に触れ合い、探究活動へとつなげていく取組を行っています。 コロナ以前は各委員の方々に、実証授業の見学をご案内しておりました。次年度はコロナの感染状況を踏まえつつ、見学の実施について検討していきたいと思えます。
2		資料を読むと、自分の世代とは隔世の感。「知識の押し付け」でなく「どうしたら良いか!？」を考えさせる教育は素晴らしい。これからの長い人生を歩む子どもたちに「考えながら成長」してもらいたい。細部は精査する必要があるかも知れないが、私の見た限りでは満足。	
3		各所での環境教育実践について、引き続き、継続することを願いたい。	
4		幼・小・中とどれも興味深い内容でした。コロナが治まったら、見学できればよいと思う。	
5		実践活動についての資料が参考になった。コロナの終息を祈るばかりです。	
6	専門部会について	コロナの影響でできることが限られるなか、立派な実践事例を報告していただき、先生方に感謝します。次年度以降も様々な制限があると思うが、教育現場に負担がないよう配慮してほしい。	これまで、小中学校の先生方をはじめ、委員の方々に「環境教育カリキュラム」や「環境教育プログラム」の作成にご尽力いただけてまいりました。その成果を踏まえ、令和3年度からは、活動の目的を“作成”から“実践”にシフトチェンジし、より一層環境教育を推進してまいりました。令和4年度以降も各現場（学校や保育園など）において、実態に合わせた形で負担のないように実施していきたいと考えております。
7		「廃棄雑誌を使ったコラージュ工作」について ・ポストに入ってくる多くの広告紙をごみとして捨ててしまうことに嫌な気持ちがありました。それが小学生によってコラージュ作品として生まれ変わる。個人個人の自己主張表現ができることは素晴らしいと思う。発想の転換により、活かし方を考えていくことが大事と知らされた。 エコポリスセンターではさまざまな環境問題について、それぞれの活動がなされている。今後も各分野の活動に期待し、環境なんでも見本市で掲げたように、捨てる物について今一度考え、再生する道を考えていきたい。 ・この活動は、「ごみ」を作成する活動にはなっていないか、確認を願う。 ・3Rについての画面を見ると、「一般社団法人産業環境管理協会 資源・リサイクル促進センター」で開発したものの。記載するときは、所属を表示していただきたい。	この活動は、身近にあり廃棄されてしまうもの（今回のケースでは雑誌や広告紙）を有効に活用することで、“再利用”について子どもたちに意識してもらうことを目的としています。報告書にはありませんが、当日は切り抜いた後の端材もごみにはせず、さらに新たな立体物を制作することで、手法を変えて何度も活用できることを学びました。 3Rの画像については、子どもたちへのレクチャーの際にパワーポイントの中に取り入れて使用しました。また、「一般社団法人産業環境管理協会 資源・リサイクル促進センター」へは掲載許可をとり、スライドショーに出典先を明記し、内容を更新いたしました。
8		「生態系の中の生物の役割」について ・とても深い内容で、その狙いをもっと知りたいと思う。いろいろな意見に対してどのようにアシストしたらよいか、プログラムリーダーに対してのサポートが必要かもしれない。 ・手を動かしながらシミュレーションできるようになっていることが素晴らしい。	この授業は、シミュレーション実験により生物の数に増減周期があることを知り、人口との比較をすることで人間が生態系に与える影響とこれから人間がすべき行動について考えることを目的としています。授業後には時間配分が課題としてあげられており、今後実施する際は、意見交換や発表などが十分に行えるように、意見集約の方法も含めて計画を立てることが必要と考えています。

No.	資料	意見・質問	回答・対応
9		<p>「シロクマさんのきもち」について</p> <p>・深刻な現象を疑似体験するとともに、この現象に直面している動物たちの“気持ち”も疑似体験するという、とてもパワフルな活動になっている。表現の方法は同じでなくても、動物たちにも感情がある、ということにも気付かせてくれる。</p> <p>・5歳児からの地球温暖化などのレクチャーはとてもよい。参加された児童や学生が「どう感じて」、「自分たちの行動にどう繋げるか」など、子供たちの意識や行動の変化などの報告があるとよい。テーマごとに成果を含めると報告書の内容も膨らむかと思う。</p>	<p>この活動は、普段の何気ない行動が地球に暮らす生き物に影響を与えていることを知り、自分たちができることは何かを考えることを目的としています。この活動の後に、子どもたちは工作の際に使った折り紙の端切れをごみにしないで使い切るなど工夫がみられているとの報告を受けています。活動前後の先生方の働きかけにより、子どもたちはより意識が高められた結果となりました。</p>
10		<p>保幼小中一貫の環境教育の実践を通して推進していくことが目的なので、今年の実践はそれぞれの年齢にあわせた「環境」を考え、様々なプログラムを実践できたのは良かったと思う。次年度はたくさんあるプログラムやカリキュラムのなかから、同じ具体的なテーマ（例えば「ゴミ」など）で、各年齢が実践をしてみると保幼小中一貫教育の成果がわかりやすいのではないかと思います。</p>	<p>次年度はいただいたご意見を参考に、テーマ設定を含めて実践の方向性を検討してまいります。</p>
11	専門部会 について	<p>説明の文章とともにスライドショーが付いているので、それぞれの活動のイメージがつかみやすくなっている。プログラムを実施していくなかで、参加者の「声」や「感想」、気付き等の紹介があるとより参考になる。</p>	<p>令和3年度より、これまでの2つの部会を統合し、環境教育実践研究部会として活動を開始いたしました。専門部会も協議会と同様に書面開催しております。環境教育の実践については、各委員の方々に、各現場それぞれの状況（対象・年齢・人数・場所・時間等）に合わせてテーマ・内容を決定し、準備から実践、その後の検証を含めた報告までを行っていただきました。</p> <p>今回の協議会で専門部会の報告を行うにあたり、実践動画（スライドショー）をホームページに掲載することで、部会の活動報告とすると同時に広く区民に周知することもでき、より啓発効果があげられるものと判断し、作成いたしました。</p> <p>また、今回のプログラムの成果物を持ち帰った子どもの保護者から、「家庭でも環境について話しあう機会ができました」との声をいただくなど、波及効果についても報告を受けております。</p> <p>今後の報告の仕方については、いただいたご意見を踏まえ、子どもたちの“行動変容”や“教育効果”について部会で検討し、改善点・反省点を次につなげていくよう工夫してまいります。</p>
12		<p>研究部会とのことなので、研究内容と実践への反映した箇所がそれぞれの活動報告に記載されていると取組の全体像がわかりやすいと思う。</p>	
13		<p>PDCAの観点から、次につなげる改善点・反省点などの記述があると効果的ではないかと思う。問題提起（教育効果としてどんな点に苦労したか、効果を上げるために何が必要であるかなど）を行うことで、さらなる効果が期待できる。積極的な意見集約ができるような報告書作りに期待する。</p>	
14		<p>子どもたちの思考・判断・表現力の育成に資するような教育実践を試みていることがわかった。一方で、教育実践を通して、子どもたちにどのような「変化」があったのか、詳細な報告を期待したい。「何をしたか」に加えて、「どのような態度や行動に変化があったか」、記録や評価の方法について、部会にてさらに検討し、その結果をご報告いただくことを期待する。</p> <p>とりわけ新しい学習指導要領では、獲得した知識を問題解決の場面で「活用」することが期待されている。問題をどれだけ「自分事」として捉え、深い「探究」的学びを通して環境問題の解決にどのようにつながったか（つながる可能性があるか）を部会にて議論し、その成果と課題を発表していただくことを期待する。</p>	

No.	資料	意見・質問	回答・対応
15	協議会 について	コロナ感染状況悪化の中、書面開催にいただいたのは良かった。	当協議会については、コロナ禍により、対面ではない形式で開催させていただきました。また、今後についても、環境負荷軽減の観点から、会場を使わない会議を推進してまいります。 また、環境教育実践では、感染防止対策として、見学者を入れず行ってまいりました。実践の様子の動画配信やオンラインでのWeb会議については、諸条件が整いましたら実施してまいります。
16		コロナ禍で1回目から書面開催だった。委員としての活動があまり明確でないため、これでいいのかと多少不安がある。	
17		現在はコロナ禍で現地参加が出来ないので、可能であれば録画等でYouTube等による限定配信をするとういのは、各委員ももう少し参考になると思う。	
18		今後の協議会の開催方法において、メール会議は、単に資料の閲覧だけになってしまうデメリットがある。選択肢として、「オンライン」(ライブ) 会議の開催可能性を検討してほしい。	
19		ペーパーレスによる意見の集約は、環境対策の観点からの一つの解決策として、昨今のトレンドでもありよい方法だと思う。一方で、議論という観点からは一方向の意見集約となり、片手落ちと感じる。Web会議などの意見交換を双方向で行う方法だと積極的な意見が出てよいと思う。	
20	環境政策課 の事業 について	「Web版環境なんでも見本市」について 画像化しているテキストの文字が小さいものが多く、もったいないように思う。レギュレーション(例えば、「画像にテキストを入れ込まない」、「テキストを入れ込むときのフォントサイズは●●」など)を決めておくのも一案かと思う。 おもちゃの病院の職人魂燃える活動者の皆さんの姿や、子どもたちが一生懸命やっている姿、ほっこりします。	令和3年度の「環境なんでも見本市」は、2/1から3/1までWebにて開催いたしました(一部、エコポリスセンターでの展示やワークショップも行いました)。今後も出展団体の皆さまの環境活動を紹介するとともに、環境について考え行動するきっかけになるようなイベントづくりに努めてまいります。
21		「いたばし 自然・いきものさがし」について すごくいいな、と思っている。区役所で展示していたコンテンツの一部を例えば図書館や児童館に順番に掲載していくなど、活動やイベント結果を皆に見てもらう機会を増やしてほしい。可能な範囲で色々なイベントを街の掲示板に貼ってほしい。	令和3年度に行われた「自然・いきものさがし」については、区役所や熱帯環境植物館等でパネル展を開催し、事業の結果報告を行っております。また、環境政策課では、令和3年度より、中央図書館と連携した事業を進めており、これまで、環境に関する区の取り組みや施策を紹介するパネル展示や省エネに関するセミナーなどを開催しております。今後もより多くの目にとまるよう、町会掲示板をはじめSNS等も活用し、環境教育の啓発に努めてまいります。
22		環境政策課のツイッターについて 写真の枚数が多くなったり、さまざまな内容が投稿されたり、以前よりも華やかになっている。今後もSNSを積極的に活用し、地域に人々が環境教育に興味や関心を持つきっかけになることを期待する。	今後もより親しみやすい情報発信を積極的に行い、区民が身近な環境に興味を持つきっかけを提供してまいります。
23	環境教育 全般について	コロナ禍において、様々な社会教育施設が事業運営に苦労されていることが、様々な状況で報告されている。「エコポリスセンター」では、どのような状況か、現状や課題について今後情報共有いただくことを期待する。	区の環境教育の推進については、年に1度、環境教育推進プラン2025の成果指標を基に進捗状況を把握し、進行管理をしております。エコポリスセンターの事業実績も指標における実績値に含め、評価・分析しております。今後、進行管理を行いながら、エコポリスセンターの現状や課題も含めて、ご報告をさせていただきます。

令和3年度 第2回板橋区環境教育推進協議会 意見回答一覧表

No.	資料	意見・質問	回答・対応
24		防災、SDGs、まちづくり等、近年環境教育の内容において期待される内容が変わってきている。持続可能な社会・地域づくりの観点で、板橋の環境教育をどのようにする（したいか）か、今後の計画策定において検討・配慮いただくことを期待する。	環境問題の解決には、SDGsの理念のもと、様々な側面からの関与があり、多岐にわたっております。区は令和4年1月に2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロをめざす「ゼロカーボンいたばし2050」を表明しました。スマートシティを推進し、持続可能な社会をめざすために行なうべき“環境教育”について、様々な視点から検討し、今後の計画策定に反映してまいります。
25	環境教育全般について	これまでの常識が一変した厳しい状況下ではあるが、実施が困難になった事業をなくすのではなく、新しい形に置き換え、さらに実現可能な形で充実させ、子どもたちの笑顔を繋げるような様々な取組みを推進してほしい。その目標達成のための協力は惜しみません。	コロナ禍により、従来の手法による事業が困難になった一方、教育ICTのツールの整備が加速化するなど、時間や場所などの制約を受けない新たな環境教育の可能性が広がってきています。今後は、これらのツールを活用し、コロナ禍における「新しい日常」のもとでも、子どもたちにとってより身近で途切れることのない環境学習の機会を提供してまいります。委員の皆さまのお力添えをお願いいたします。
26		新任で会議も行われていない状況で意見として述べることはないが、何か携われることがあればお手伝いできます。	
27		今年も、この「いたばし」から地球に優しいことを考え、実行していきたいと思う。	